



学校だより

天王丘



令和6年1月19日(金)
第 28 号
観音寺市立柞田小学校
発行

長
子
配
付

野球しようぜ！ ～ 大谷翔平選手からの贈り物 ～



2024/01/16 08:29



その後、オリーブガイナーズからいただいたスポンジボールを使って、六年生児童や先生によるキャッチボールのデモンストレーションを行い、体育館は歓声に包まれました。
大谷選手からいただいたグローブは、授業参観の際に1階児童玄関にも展示します。ぜひご覧ください。

この3つの野球グローブは学校への寄付となります。それ以上に私はこのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。それは、野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。…(中略)…
この機会にグローブの寄贈をさせていただけることに感謝いたします。貴校の益々のご発展をお祈り申し上げます。
野球しようぜ。

十五日(月)、全校集会で、大谷翔平選手から贈られてきたグローブの「開封の儀」及び使い方の説明会を行いました。
まずは、児童会役員が箱を開封して、全校生にグローブをお披露目しました。その後、大谷翔平選手からいただいたメッセージを読み上げました。以下に一部抜粋します。

3学期 学級委員の紹介 ～ 「仕上げの学期」に向けて～

15日(月)、大谷翔平選手からのグローブの紹介に先立ち、3学期の学級委員の任命式を行いました。任命式を全校集会の場で行うのは、実に4年ぶりのこととなります。全校生の前でしっかりと返事をし、凛とした姿を見せる6年生の様子にも学ぶ、貴重な機会となりました。私からは全校生に向けて、「3学期は、次の学年への準備をする大切な日々。気持ちを引き締めて、学級委員と一緒に、楽しく思い出に残る日々を過ごしてください。」という話をしました。

学年・組	学級委員		学年・組	学級委員	
2年1組	富田 崇慈	井下 まこ	4年3組	上村直太郎	高原 海音
2年2組	森田 晋悟	橋野 葉奈	5年1組	平岡 孝将	川崎 碧姫
3年1組	上村遥太郎	秋山 楓	5年2組	松本 愛稀	石井 雫
3年2組	塩尻 愛士	茅野 千紗	6年1組	高橋 陽	藤田妃茉理
3年3組	大谷 浩晟	井川 凜香	6年2組	塩野 稜空	多田 梨乃
4年1組	浦上あたる	合田 紬	6年3組	石川 葵雲	岡田 彩愛
4年2組	大西 護	張 幸佳			

1/25(木)6校時、「保健講演会」にぜひ、ご参加ください！

1月25日(木)5校時の授業参観の後、6校時に保健講演会を行います。講師は香川大学医学部教授・鈴木裕美先生です。おなじみの「Dr.ひろみのハッピー子育て広場」(裏面参照)や西日本放送ラジオ「CHIT CHAT RADIO」でもご活躍の鈴木先生から、子育てに関する貴重なお話を聞くことができる好機です。ぜひ、多くの方にご参会いただけることを、ご期待しております。

Dr.ひろみの

ハッピー子育てひろば



☆プロフィール☆
鈴木 裕美 (すずき ひろみ)
香川大学医学部 小児科専門医

みなさんこんにちは。高齢化が進んで認知症になる人も多そうですね。今は子育てに忙しい人も、いずれ介護に忙しくなり、その中で親が認知症になったらと不安に思っている方も多いと思います。私の姑は認知症で近くの施設に入っているのですが、いろいろ笑わせてくれます。姑は部屋で探し物をしていて娘はスマホをいじっていたのですが、突然探し物が見つかり、自分が探して見つけたことを忘れて「〇〇ちゃん、見つけてくれたの！ありがとう！！」と何もしてない娘の手柄にしました。娘が帰省した時は何でも買ってあげると言うので、娘がシャインマスカットを選んだら、姑が会計し忘れたので私が支払いました。夕食後のデザートにそのシャインマスカットを出したら「こんな高いの、よく買うね！」と言うのでみんなで大爆笑しました。

親は悪気なく、子どものためだと思い、注意したり叱ったり、よい方向に導こうとします。しかし、その方法によっては、自分が否定されたり、意思を尊重されていないと感じて、親に大切にされていない、自分はだめな人間だ、と落ち込んでしまいます。

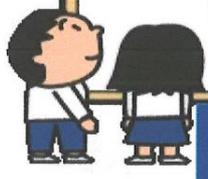
さあ、今回は
つくり直す愛着
(親子関係) です
心のドアが開く時

思春期になると、この思いが親に対する怒りや恨みとなって親子関係が悪くなるのです。



この時こそチャンス

- ① 子どもを苦しめていたことを認めることです。
昔のささいなことを怒って話し出すかもしれませんが、黙って、じっと聞いてあげてください。
「そんなふうには思っていたんだね」「傷つけてごめんね」「ずっと辛かったんだね」と言ってあげてください。
- ② 子どもに十分甘えさせましょう。
小さい時のように、抱きしめたり、頭をなでたり、何気ない会話を楽しみましょう。幼い子どものように、親は自分を無条件に愛し、味方になってくれるという「安心感」と「信頼感」を与えてください。
子どもは翼を癒し、また大空に向かって飛び立ちます。



これが難しいんですよね。こちらは子どものために思っていることで、誤解されたと感じて怒りたくなります。でも、押さえつけると、せっかくのチャンスを逃してしまいます。親としては認めたくないですが、向き合うことが大切です。

長女が18歳で家を出た時に本棚に挟んであった私への手紙を見つけました。そこには自分だけ愛されていなかった、認めてもらえなかった、分かってもらえなかったことが辛かったと切々と書いてありました。私は直接謝る機会を逸してしまいましたが、それから電話で話す時はネガティブなことを一切言わないようにし、褒めたり励ますようにしました。帰省した時は2人で旅行したり、一緒に布団で寝たり、お風呂に入ったり。娘は徐々に明るくなり、積極的に様々な活動に参加し、語学検定を受けたり留学したり。愛着はいつでも作り直せるし、それで子どもの未来が変わることを身をもって体験しました。

